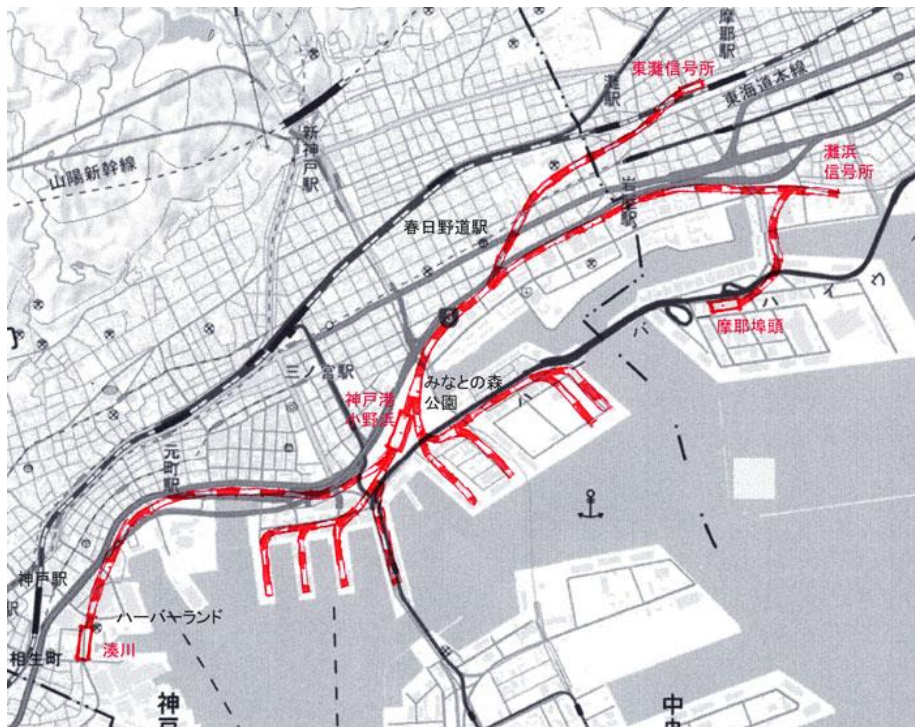


神戸臨港線廃線跡をめぐる

神戸臨港線とは？



近代において船舶は最も優れた大量輸送機関であり、港で陸揚げされた貨物を内陸部へ運ぶには、鉄道が重要な役割をはたした。神戸港においても1907年（明治40年）に東海道本線の東灘信号場（現在の摩耶駅）から分岐して、国道2号線を跨いで小野浜駅（のちの神戸港駅）へ単線で向かう鉄道が敷設され、貨物の取扱いを始めた。この神戸にあった東海道本線の貨物支線が「神戸臨港線」と通称された。

その後、神戸港の整備が進み、1922年（大正11年）には4本の突堤が完成し、小野浜駅からそれぞれに引き込み線が延長された。さらに1936年（昭和11年）には現在のハーバーランドまで延伸された。

また第四突堤には駅が設置され、欧州航路の出航日には、京都から旅客向け臨時列車が運転された。この列車を大陸連絡列車あるいはポート・トレイン（またはボート・トレイン）と呼んだ。逆に欧州からの客船が着くと、観光用に京都まで特別列車が運転された。

大正から昭和時代に最盛期を迎えたが、時代は鉄道からトラック輸送へ移行し、神戸の近代化に寄与した臨港線も2003年（平成15年）11月30日にすべて廃止され、96年の歴史に幕を閉じた。

①灘のタカバシ

1907年（明治40年）に現在のJR灘駅の約300m東にあった東灘信号場から中央区の小野浜にかけて臨港線のレールが敷かれた際、岩屋村（今のJR灘駅周辺）と田原村（今の阪急王子公園駅南側一帯）とを結ぶ道筋に設けられた鉄道を跨ぐ橋として建設された。

「タカバシ」の名で親しまれ、近くの交差点名にもなっている。当時は赤煉瓦で造られ、震災前までは橋脚部分に一部その面影が残っていた。

隣の公園には臨港線の遺構である、レールと車止めがある。



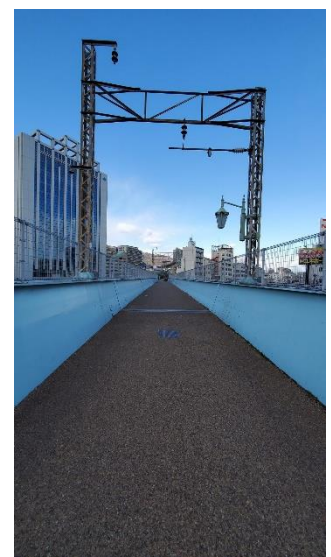
（現在のタカバシ）

②JR 貨物臨港線廃線跡散歩道

JR灘駅南側から阪神春日野道のドンキホーテあたりまでの約1kmの廃線跡地を神戸市が買収し、2009年（平成21年）に鉄道施設を活用した遊歩道を整備した。レンガ造りの橋台を遊歩道の橋の支えに使い、レールの一部やキロポストをモニュメントとして設置されている。また、国道2号線を跨ぐ箇所には当時の架線柱をそのまま残しており、当時の雰囲気を彷彿させる風景となっている。

神戸市立科学技術高等学校付近の約200mの区間には、同校の鉄道研究会が作製したミニSLの線路が常設されている。年数回運転を行うイベントが開催されており、近隣の保育園の園児や市民が試乗会に参加し、楽しんでいる。

遊歩道に沿って桜が約100本植えられており、春には市民の憩いの場になっている。これは近くに本社がある住友ゴム工業が創業100周年記念で寄贈したものである。



③小野浜町煉瓦下水道と神戸臨港線架道橋跡

神戸港の駅構内に造られたもので、煉瓦の柱の間が下水道で、その下水道の上を神戸港駅に出入りする列車が通っていた。

明治時代の建築物としても貴重なもので、煉瓦と花崗岩の切り石の積み方は下水道への列車の重量の負荷を軽減させる工夫がみられるとか。

都市計画道路生田川右岸線の整備に伴い、移設保存された。

HAT ゆめ公園にある。



④「神戸港駅の記憶」

第四突堤の付け根近くにあり、約9万5千㎡の広さがあった神戸港駅は現在再開発が実施されて神戸震災復興記念公園（通称：みなとの森公園）となっている。ここに阪神淡路大震災の時計・鐘のモニュメントとともに、神戸港駅を示す標識や車止めの線路が設置されている。



(2003.11 廃止直前の神戸港駅)



(次回予告)

バスハイク

2023.5.14

兵庫史を歩く No.36

国生み神話の「おのころ島」はどこだ？

淡路： 沼 島 (ぬしま)

国生み神話の謎を解き明かす！